

司書養成高等教育機関として実施する『子ども司書』認定講座の狙

いとカリキュラム構築

アンドリュー・デュアー

Devising a Curriculum to Fulfill the Goals of the “Junior Librarian” Credential at a University with a Librarianship Program

Andrew Dewar

Abstract

This paper proposes a curriculum for the “Junior Librarian” program in planning at the Sakura no Seibo Junior College. The “Junior Librarian” credential is awarded to elementary school children who complete a series of courses teaching basic library skills, book production, and techniques for promoting reading at home and school. It is intended that graduates of the program will use their skills to involve their families, friends, and schoolmates in casual, voluntary reading activities. An examination of the goals and expectations of the course, and a comparison with the six other curriculums in place around Japan, led to an outline of a workable 20-hour curriculum.

はじめに

「子ども司書」制度は2009年、福島県矢祭町の街づくり事業の一環として、子どもの読書活動を促進する狙いで考案・採択されたものである。矢祭もったいない図書館で有名となった矢祭町は、子どもをはじめ町民の読書活動の促進を政策に取り入れている。「子ども司書」制度を始めた背景には、学校の読書促進の取り組みの乏しさに対する懸念がある。他の自治体では、図書館の推進活動の効果が薄いことも認めざるを得ない。朝の読書運動などが制度として概ね定着しているものの、多くの学校では、読書活動への支援不足が原因で望むべき効果が十分に生まれていない。しかし、読書習慣を身につけた子ども同士の交流を駆使することによって、読書の楽しさと図書館利用の有用性への理解を自然に広めることができると思われる。矢祭町の考えでは、子どもにこれらを直接教える講座なら効果的であろう。その講座が「子ども司書」の養成講座である。

読書というのは、ゲームやテレビ、インターネット、マンガなどが子どもに与える影響が心配される中、高く評価されている。読書習慣は子どもの健全な成長と学力の向上によい影響を与えると見られているので、その意義が広く認められている。さらに、朝日新聞が2010年に全国学校図書館協議会の協力を得てまとめた「第56回学校読書調査」では、読書のイメージとして「良いこと」、「楽しい」、「役に立つ」などの肯定的な表現が上位を占めた。⁽¹⁾ 読書の楽しさは人によって感じ方が違うが、学習効果などは普遍的だと思われる。絵本や物語を読む子どもは人の気持ちと動機などを読み取る力を身につけ、疑似体験を通して幅広い感情に触れることができる。ノンフィクション（「リアル系」の本）を通して、子どもは周りの世界を知ることができる。人間関係や世界の仕組みをゼロから習

わないといけない子どもにとっては、直接体験できる範囲を超えて世界を知る手段としての読書は大変有効である。しかも、本を読むこと自体は積極的な取り組みと想像力を要求するため、テレビの視聴より脳を刺激する。⁽²⁾ また、本であれば、知りたいことを即に調べることができ、繰り返し参考できるから、学習効果が受身で観賞するテレビより大きい。複数の本を調べることにより、理解を深め、内容の信憑性を判断できるようになる。総じて言えば、読書習慣を身につけている子どもは好奇心の満たし方がわかり、豊かな感受性を持ち、効果的に学習できる人である。

読書は調べる力以外の面でも、学力を向上させるといわれている。国語科教諭の中島克治氏によれば、読書の効果として「ものごとを見る目が養われる」こと、「語彙が増える」こと、そして「キレにくい子どもが育つ」ことも期待できる。⁽³⁾ つまり、本を読むことによって、想像を使ってものごとを見通し、よしあしを判断できるようになる。また、本を通して普段の生活の中で触れたことの少ない単語や表現に出会ったりするため、語彙と表現力が鍛えられる。そして、本に登場する人々の性格や作用を観察することによって、人間関係を擬似的に体験し、自分の行動と悩みを客観的に見る能力が育つと思われる。

しかし、読書の効果が大きいと認められているのに対して普及が低迷している原因を考える必要がある。まず、子どもの限られた時間の中で、読書はゲームとテレビとの競争に負けやすいことが挙げられる。ゲームは本より刺激的であるうえ、メディアや子どもの口コミなどによって強く宣伝されているため、多くの子どもにとってその影響が大きい。そして、続けて見るように中身が巧みに構成されているテレビが家にある限り、音と映像が気になり、集中力を奪う性質がある。どちらの場合も広く鑑賞されている分、共通の話題になりやすいものである。逆に言えば、子どもがテレビとゲームに多くの時間を費やしていれば、互いの話題についていくために友だちはみな同じゲームとテレビを持っていないといけない。この悪循環が読書離れにつながるといえる。テレビとゲームに対して、読書は多少努力を要するし、一斉放送ではなく個人の趣味で進められるため、話題になる前提として本の紹介と説明が必要なので、競争に負ける。

ところが、ゲームとテレビが流行するメカニズムを利用すれば、読書と図書館利用を流行させることも可能なはずである。読書の感動と知る喜びに目覚めた子どもが友だちと同級生に自分の気持ちを伝えることにより、好奇心と協調性が働き出し、読んでみようとする気持ちが自然に広がる。大人に「読みなさい」といわれるよりも、友だちに「読んだらこんなに面白いよ」といわれた方が子どもにとって読みたくなると思われるし、先生に勧められる本より友だちに勧められた本の方が魅力的なはずである。ゲームとテレビは子ども同士の話し合いによって広がると同様、読書も広がる可能性が充分にある。家庭の協力によってゲームとテレビに触れる機会が少なくなれば、読書の流行する環境が充分に整備され得る。これが、「子ども司書」の考えの基礎である。

「子ども司書」の試み

矢祭町が2009年に「子ども司書」を考案し、全国初の講座を開いた。講座の14人の1期生は2010年2月に認定書を授与され、子ども司書としての活動を始めた。その後、5つの県と市（高知県、佐賀県伊万里市、広島県、青森県板柳市、栃木県小山市）が新たに「子ども司書」制度を採用し、独自の講座を開いている。2011年7月から講座

を開く予定の桜の聖母短期大学は全国で7番目の実施となるが、高等教育機関としては、全国で初めての取り組みである。

「子ども司書」制度の効果を評価するには、初めての子ども司書の認定から1年しか経っておらず、その活動はまだ学校や地域に浸透していないため、まだ早いと思われる。カリキュラムの構成を検討するためのデータも初期段階であるため、十分に得られない。

しかし、全国の6事例の取り組みを参考にしながら、講座の目的と望むべき効果から推察し、司書養成を行っている高等教育機関としての「子ども司書」認定講座カリキュラムを構築することが可能である。

子ども司書の目的

矢祭町が最初の講座を立ち上げる際、要項に次の目的を掲げた。

『矢祭子ども司書』講座は、全国からの善意によって開館した「矢祭もったいない図書館」を拠点に、児童が全国からの善意に感謝の心を持って楽しく本に親しみ、豊かな心と将来に夢や希望をふくらませるとともに、図書館の仕事にかかわりながら、司書についてのノウハウを修得し、友達や家族に対して読書のすばらしさを伝え、本と人との結びつきを手助けするリーダー養成を図ることを目的とし、開設する。」

(4)

「矢祭もったいない図書館」に触れる部分はもちろん矢祭町の事情に特化した内容であるが、それ以降の部分は参考にできる。大きく分けて3つの目的が混在していると思われる。まず、受講生が図書館の仕事に触れて司書のノウハウを得、図書館の仕組みを理解することが目的である。2つ目として、読書のすばらしさを友だちや家族に伝えることによって本を紹介する方法を学ぶことを目的にしている。3つ目として、本と人を結びリーダーを養成すること、すなわち地域に貢献することが目的である。

矢祭町のカリキュラムの内容には、俳句スクールや手づくり絵本講座なども含まれているが、司書養成機関として本の成り立ちを理解するための内容を豊富に取り入れる必要があると思われる。本への理解を深めるには、絵本や「リアル系」の本の作家が題材を集める段階から本ができるまでの過程を紹介しつつ、実践的な活動を取り入れることが有効であろう。このテーマを上述の3つに加えると、「子ども司書」の目的に次の要素を網羅すべきだと考える。

- 1) 図書館の仕組みを理解する
- 2) 本を紹介する方法を学ぶ
- 3) 地域に貢献する
- 4) 本の制作過程を知る

これらのバランスを考慮して、桜の聖母の講座において、次の目的を提案できる。

「福島市の小学校の読書活動を推進する児童を育成し、リーダーとして学校や地域で読

書の楽しさや大切さを広めていくことにより、児童の読書活動の充実を図るとともに、本との触れ合いとその制作過程への理解を通して学力向上を図る。『子ども司書』講座は子ども同士の読書活動を刺激し、促進できる人材を養成する。『子ども司書』の修了者は自分の学校で、図書委員会の活動、推薦図書リストの作成、読み聞かせ、朝の読書や調べ学習、ふれあいタイム、学級活動などにおいて、リーダーを務める。地域では、子ども司書は公立図書館や学習センターなどの催しに積極的に参加し、協力する。家庭では、子ども司書は自分の読書や家族といっしょの読書の時間をいっそう楽しむ。さらに、子ども司書はボランティアとして学校図書館において司書教諭を援助することができる。」

狙いと望まれる効果

カリキュラムの構成を検討する際、包括的な目的と目標をより細かい狙いと望まれる講座の効果に区分けして考えることが有用である。各講座で教える内容を全部履修すれば全体の目的が達成されるように、一つ一つの講座で教える内容を狙い別のレベルで考える必要がある。講座の具体的内容はこれらの狙いを満たし、効果を生み出す内容でなければならない。狙いを満たし、効果を生み出すための必要な話をいずれかの講座に充てれば、最後に全体の目的達成に必要な内容が網羅される。逆に、目的と狙いと関係のない内容は不要と判断できる。

「子ども司書」のカリキュラムには、次のような狙いと望まれる効果があると考えられる。

1) 図書館の仕組みを理解する

「司書」のごとく、図書館の効果的利用法を覚えることが大きな狙いである。この中で、自分の図書館利用の上達が最も重要である。児童としても、社会人としても、図書館を生涯学習の場として活用できるようになって欲しい。しかし、子ども司書は自分だけではなく、周囲の人へ図書館の利用を案内できるようにならなければならない。これらの狙いを満たすために、司書の仕事（選書、分類、貸出業務、レファレンスサービスなど）の基本を教える内容および図書館の施設をじっくり見学する内容を多く取り入れる必要がある。

さらに、直接的な狙いとしてカリキュラムに反映しないが、図書館を将来の職場として考えさせることも望ましい。

2) 本を紹介する方法を学ぶ

子ども司書となった子どもの主な活動は学校や家庭で周囲の人に本を紹介しながら読書習慣を促進することであるため、本を紹介する方法や読書の魅力を伝える技術を身につける必要がある。子どもを持っている熱意と恥ずかしさを乗り越える力を引き出す内容の講座が必要である。個人としてまず本の魅力を見つけて、読書ノートと感想文によって表現できる練習が必要である。それから友だちへの紹介のしかたと家族への紹介のしかたをそれぞれ考える。最後に、兄弟や下級生に良い本を楽しく紹介するための読み聞かせ技術を体験する内容が必要である。

3) 地域に貢献する

地域への貢献は活動の結果として生まれるものであるため、直接的に教えがたいものと思われる。しかし、貢献する精神を育む内容を工夫する必要がある。学校および図書館への貢献を視野に入れ、それぞれの講座へ助言として取り入れることが考えられる。また、読書の学力向上への効果、生涯学習の意義などを説明することが望ましい。

4) 本の制作過程を知る

読書と図書館が好きな人には、本ができる過程は知りたい内容であろう。また、教養としても、気分転換としても、子どもたちの興味を維持するために効果的内容であろう。まず、作品としての本を考えた上、取材、執筆、編集、出版などを理解させる。取材と絵本作りを実際に体験することも効果的であろう。そして、モノとしての本を考え、その取り扱いと修理を理解させる。スクラップブック作りを通して、製本なども体験させることができる。この内容を中心的に取り上げることが桜の聖母短期大学の独自の試みである。

講習の時間

「子ども司書」の目的と内容は、図書館法に基づいている司書の教科と極めて似ている。司書の養成課程のなかで図書館の制度と業務、読書活動の促進、コミュニケーション能力などを十分に伝えるために、最低20単位（延べ300時間）の講習が必要となっている。また、平成24年度以降、法の構成によって講習が24単位以上、420時間以上となる。もちろん、「子ども司書」は司書に匹敵する能力は必要ないが、1～2回の講座だけではこれらの目的を達成することはできないと思われる。したがって、相当時間を充て、内容をじっくりと伝えることが望ましいと思われる。

矢祭町はカリキュラムを目的とテーマ別に15講座に分けた。図書館の仕事の理解や読書の勧め方などを分けて教えることにより、複雑な内容に集中しても、子どもの興味を維持することができる。選択肢を持たすことは教科内容の好き嫌いへの配慮というより、やむをえない欠席に対する救いの措置だと考えられる。受講生は最大30時間、最低24時間の講習を受けて資格を取得するので、目的達成と理解の浸透を十分に保障されると思われる。

他の「子ども司書」の講座時間は次の通りである。

県・自治体	講座の回数	総時間
福島県矢祭町	15講座（12以上履修）	30時間
高知県	6講座（全部履修）	34時間
佐賀県伊万里市	5講座（2以上履修）	11.5時間
広島県	5講座（全部履修）	約25時間
青森県板柳市	10講座（全部履修）	26.5時間
栃木県小山市	10講座（8以上履修）	20時間

この中で、伊万里市の企画が最もゆるとわかる。伊万里市の講座内容をみても、「子ども司書」への取り組みは比較的安易だと思われる。それ以外の講座の平均開講時間は最大27.1時間、最低25.1時間となっており、大学の講義科目の時間に相当する。

ところが、教える内容の実行性や子どもの集中力を考えると、講座の時間を20時間程度に抑え、洗練された内容にまとめることも可能であろう。矢祭町の3回の俳句講座や板柳市のクリスマス飾り作りなどは教養として価値があるが、講座の時間を節約しなければならない場合はこのような内容を省くことができる。図書館の仕組みを理解するための講

習の一部を図書館の現場で行えば、子どもは話の内容をより早く吸収できると思われる。同時に、一般教養的な部分を最小限に抑えても、気分転換としての効果を視野に入れることも重要であろう。

20時間であれば、時間の配分として、図書館の仕事と本の紹介術を中心に位置づけ、地域貢献や本作りを短時間で教えることが効果的であろう。したがって、カリキュラムの時間配分をまず

図書館の仕組みを理解する	8時間
本を紹介する方法を学ぶ	4時間
地域に貢献する	2時間
本の制作過程を知る	6時間
計	20時間

とする。また、それぞれの項目を演習と実習に分ける。座学に加えて現場を見学したり、仕事を体験したりすることが効果的と考えるので、演習を8時間程度、実習を12時間程度とする。

初めて実施する講習では、小学校の夏休み時間を利用することとし、すべての講座を4日間で集中的に行う。したがって、受講する子どもの受けやすい工夫が望まれる。午前2時間の演習内容を実施し、お昼をはさんで午後に実習内容を3時間ほど実施する。これは小学生にとってやや過密かもしれないが、1日5時間は小学校自体とさほど変わらないペースなので高学年の子どもには充分可能な体制だと思われる。

桜の聖母短期大学のカリキュラムの提案

大まかな内容項目と時間の配分を決めたところで、目標と狙いを満たす具体的な内容を各項目に貼り付けなければならない。

図書館の仕組みと司書の仕事についての内容は最も多い。しかし、子どもの集中力と吸収力を考えれば、すべての内容を続けて紹介することは望ましくない。教える内容を分かりやすい順番に並べて、数回に分けて紹介すべきである。また、教室にふさわしい内容と図書館で体験しながら習う内容を多少混ぜて、同じ時間内でも動きのある講座にすることによって、集中力をより維持でき、話で聞いた内容をすぐに体験できるので、学習効果が上がると思われる。図書館の仕組みと司書の仕事について教えたい内容には、次のテーマがある。

- 図書館と司書とは何か（司書教諭についても説明する）
- 図書館を実際に見学・探索する
- 図書の分類と配架
- 図書の修理と保存
- 間接的サービス（選書、分類、目録作成）
- 直接的サービス（カウンター業務、レファレンス業務、読書案内）
- 図書館連携

この中でも、最初の2項目、すなわち図書館の基本と司書の全体像が後の内容の土台となるため、なるべく早く紹介したい。それ以外の内容は演習内容として2日目と3日目に分け、教室と図書館で実施する。

本の紹介する方法についての内容として、実践的な活動が中心的となるので、午後の実習として実施することは主となる。他の講座では読書感想文の執筆や本の紹介をするための時間を設けているが、これらの内容は子ども同士の相性を確認した上で実施の方法を決める。次のようなテーマを取り上げる。

- 読書はなんのため？
- お話会の見学と実践
- 本の紹介の仕方
- 学校の読書活動促進法

地域貢献の内容は上述の通り、間接的に取り上げるものであろうが、一回目の講座で図書館と司書の基礎を話す中で貢献し方やボランティア活動の意義、生涯学習の重要性などについて話すべきである。

最後に、本への理解をさらに深めるために、本の制作過程として、絵本や「リアル系」の本の作家が題材を集める段階から本ができるまでの過程を紹介したい。この内容は主に実践的な内容になる。次のようなテーマを取り上げる。

- 手作り絵本の制作
- パソコン講座
- インターネットの利用
- 取材の方法
- 本づくりとスクラップブック

これらの内容を4日間の枠に入れると、次のような展開となる。

日	時間	方法	講座内容
1	午前	演習	オリエンテーション、基礎（図書館とは？ 司書とは？ 司書教諭とは？ 読書はなんのため？）図書館の見学・探索など
	午後	実習	お話会の見学と実践、手作り絵本の制作
2	午前	演習	司書の仕事（1）カウンター、レファレンス、検索、選書
	午後	実習	パソコン講座、インターネットの利用、取材、生涯学習
3	午前	演習	司書の仕事（2）NDCと分類、目録、配架、修理、保存
	午後	実習	本づくりとスクラップブック
4	午前	演習	子ども司書の仕事と活動の展開 （本の紹介の仕方、図書館連携、課題、学校の読書活動促進法など）
	午後	実習	市立図書館または県立図書館の見学、修了・授与式

おわりに

本研究は「子ども司書」講座の立ち上げに向けての基礎研究および検討過程である。講座の実施に伴い、内容を調整する必要があると思われる。今後、講座実施前後における参加児童および小学校、家庭などで調査等を行った上で、よりよい「子ども司書」養成カリキュラムの構築を目指していく予定である。

引用

- 1) <http://www.kodomo.go.jp/resource/child/kn/bnum/2010-kn039.html> (最終検索は平成23年1月9日)
- 2) たとえば、<http://www.yomiuri.co.jp/nie/se/06/03.htm> (最終検索は平成23年1月9日)、<http://katsuji.yomiuri.co.jp/event/forum/20041101.htm> (最終検索は平成23年1月9日)、天道佐津子編著、「読書と豊かな人間性の育成」(青弓社、2005年) 50～65ページなどを参照
- 3) 中島克治著、「小学生のための読解力をつける魔法の本棚」(小学館、2009年) 45～50ページ
- 4) http://uchidoku.com/?action=common_download_main&upload_id=99 (最終検索は平成23年1月9日)

参考文献

- 赤木かん子著、「子どもの本を買ってあげる前に読む本」(ポプラ、2008年)
- 赤城かん子著、「読書力アップ! 学校図書館の作り方」(光村図書、2010年)
- 清川輝基、内海裕美著、「『メディア漬け』で壊れる子どもたち」(少年写真新聞社、2010年)
- 全国学校図書館協議会編、「学校図書館の活用名人になる」(国土社、2010年)
- 天道佐津子編著、「読書と豊かな人間性の育成」(青弓社、2005年)
- 中島克治著、「小学生のための読解力をつける魔法の本棚」(小学館、2009年)
- 中島克治著、「小学生のための読解力をつける『読書紹介文』ノート」(小学館、2010年)
- 二村健監修、「図書館のヒミツ」(すずき出版、2010年)
- 二村健監修、「エンジョイ! 図書館」(すずき出版、2010年)
- 二村健監修、「ようこそ、ぼくらの図書館へ!」(すずき出版、2010年)
- 林義人著、「図書館」(小峰書店、2004年)
- 山崎哲男著、「調べるって、どんなこと?」(ポプラ、2001年)
- Wolf, Marianne, *Proust and the Squid: The Story and Science of the Reading Brain*,
New York: Harper Perennial, 2008
- 「子ども司書」制度の公式サイトは http://uchidoku.com/?page_id=21 にある。ここから、全国の講座の要項と報告書へと進められる。

参考資料1 現行講座のカリキュラム一覧

県・自治体	講座名・内容
福島県矢祭町	<p>日本十進分類法(NDC)による 図書の分類と配架について ジュニア俳句スクール in 矢祭 (2回) 図書の検索、受付・登録・貸し出しと返却について 視察研修旅行 ①県立図書館 視察研修旅行 ②福島市子どもの夢を育む施設 「こむこむ」 手づくり絵本教室 パソコン講座 (2回) 図書の保管とおはなし会への参加 ジュニア俳句スクール 読み聞かせの技能について (実技) 読み聞かせのための選書について 読み聞かせの技能について (発表)</p>
高知県	<p>基本研修 (2回) 実技、実地研修 (3回) 専門研修 (1回)</p>
佐賀県伊万里市	<p>図書館員の仕事を体験してみよう! 館内案内、デスク業務、書架整理 など おはなし会をしてみよう! 絵本の持ち方や読み方などの練習後、子どもを対象にしたおはなし会で実演 おすすめの本の書評を書いてみよう! 書評の書き方についての講義を受けた後、おすすめの本の書評を書く 布の絵本を作ってみよう! 「てんとう虫の家」ボランティアスタッフの指導による布の作品づくり 図書館検定にチャレンジ! 図書館に関しての講義を受けた後、検定問題を解く (全員受講)</p>
広島県	<p>全体研修①: 講話「読書ってすばらしい!」、演習「読み聞かせ名人になろう!」、書庫見学「出発! 図書館探険隊」 実地研修: 地域の図書館で、実際の図書館の仕事の見学や体験 全体研修②: 演習「『読書っていいな』大作戦」、演習「ポップをつくろう!」 学校・市町立図書館での活動 (5回以上) 「子ども司書」としての活動報告会</p>
青森県板柳市	<p>基本研修「司書ってなあに」 基本研修「図書館、図書室の役割・本の分類」 絵本を作ってみよう! 県立図書館見学 本の紹介をしよう! (チラシ作成)</p>

	<p>読み聞かせのテクニック 子どもブックランド「本の森」「読み聞かせを実践しよう！」 図書館のディスプレイ「クリスマスの飾りをつくろう」 本の貸出・返却に実践</p>
栃木県小山市	<p>オリエンテーション（自己紹介と話し合い）、学校図書館と中央図書館の仕事と役割について 本の分類と整理、配架について 上手な本の使い方（検索・レファレンス） 本の紹介について 読み聞かせ、おはなし会について 司書体験（窓口業務 利用者登録・貸出・返却の実習）（3回） 図書館の飾りつけについて（おすすめ本の紹介） 受講生によるおはなし会・修了式</p>

参考資料2 桜の聖母生涯学習センター「子ども司書」講座の要項

<p>桜の聖母生涯学習センター「子ども司書」講座 要項</p>
<p>目的</p> <p>福島市の小学校の読書活動を推進する児童を育成し、リーダーとして学校や地域で読書の楽しさや大切さを広めていくことにより、児童の読書活動の充実を図るとともに、本との触れ合いとその制作過程への理解を通して学力向上を図る。「子ども司書」講座は子ども同士の読書活動を刺激し、促進できる人材を養成する。</p>
<p>役割と活動</p> <p>「子ども司書」の修了者は自分の学校で、図書委員会の活動、推薦図書リストの作成、読み聞かせ、朝の読書や調べ学習、ふれあいタイム、学級活動などにおいて、リーダーを務める。地域では、子ども司書は公立図書館や学習センターなどの催しに積極的に参加したり協力したりする。家庭では、子ども司書は自分の読書や家族といっしょの読書の時間をいっそう楽しむ。さらに、子ども司書はボランティアとして学校図書館において司書教諭を援助できる。</p>
<p>期待できる効果</p> <p>「子ども司書」の養成と活用は子どもの読書の質と量の向上につながると期待できる。特に、子ども同士の交流は、本の面白さと読書の魅力を伝えるには、先生と保護者の助言よりも効果的であろう。養成講座は読書好きの子どもをいっそう増やし、学校図書館や地域の図書館に行く子どもを増やし、読書活動推進の気運を高める。また、養成講座を受講することにより、子どもは知的好奇心の満たし方を知り、生涯学習へ関心を持ち、生涯にわたり家庭やコミュニティーにおいて読書と図書館利用を促進できるようになる。</p>

さらに、子ども司書となった児童は社会人になってからも、図書館の支持者として地域で読書文化を支える重要な人材となる。

カリキュラム

- 1) 1日目午前 演習講座（2時間）
オリエンテーション、基礎（図書館とは？ 司書とは？ 司書教諭とは？ 読書は
なんのため？）、図書館の見学・探索など
- 2) 1日目午後 実習講座（3時間）
お話会の見学と実践、手作り絵本の制作
- 3) 2日目午前 演習講座（2時間）
司書の仕事（1）カウンター、レファレンス、検索、選書
- 4) 2日目午後 実習講座（3時間）
パソコン講座、インターネットの利用、取材、生涯学習
- 5) 3日目午前 演習講座（2時間）
司書の仕事（2）NDCと分類、目録、配架、修理、保存
- 6) 3日目午後 実習講座（3時間）
本づくりとスクラップブック
- 7) 4日目午前 演習講座（2時間）
子ども司書の仕事と活動の展開
（本の紹介仕方、図書館連携、課題、学校の読書活動促進法など）
- 8) 4日目午後 実習講座（3時間）
市立図書館または県立図書館の見学、修了・授与式

養成方法

- ・対象学生を小学校3年から6年の児童とする
- ・望ましい受講生は、1年に30冊以上の本を読んで、図書館に関心を持っている児童
- ・講座を小学校の夏休みに合わせ、平日を含む4日間とする
- ・午前中は演習講座（2時間）、午後は実習講座（3時間）
- ・演習講座は必修。実習講座は3講座以上履修する
- ・修了者には本学学長名で「子ども司書」の認定書が授与される
- ・桜の聖母短期大学の司書養成担当教員を講師とする
- ・桜の聖母短期大学の司書課程の学生をできる限り講座に助手として参入する